



2025年3月12日

京都大学記者クラブ加盟各社
在阪民放四社京都支局協議会加盟各社
文部科学記者会
科学記者会 御中

記者説明のお知らせ

ひとが投資をするとはどういうことか —「自己形成としての投資」に関する概念分析と価値提案—

京都大学文学研究科哲学専修・出口康夫教授と成長戦略本部の渡邊特定助教は、(株)お金のデザイン社・取締役副会長/ファウンダー廣瀬朋由氏との産学連携共同研究の成果について、下記のとおり記者説明を行いますので、ご参加くださるようお知らせします。

なお、本発表の報道解禁日時は、**2025年3月14日（金）午前11時**です。

記

日時 **2025年3月14日（金）午前11時00分～**
場所 **京都大学文学部地下大会議室（ハイブリッド形式）**
※下記マップの8番の建物です。

<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/campus/yoshida/map6r-y>

<オンライン配信>

オンライン会議システム Zoom を使用してオンラインからも開催します。開始時間の15分前から下記のURLでアクセスできます。

<https://kyoto-u-edu.zoom.us/j/94627781722?pwd=j8U4DhiovgbpbIFHzYlStablODsvof.1>

ミーティングID：946 2778 1722

パスコード：375039

<参加受付>

ご参加いただける方は、できる限り事前に以下のフォームからお知らせください。

申込みフォーム：<https://forms.gle/UtahUJmxLeE5eRR87>

・配布資料

記者説明開始までに、以下のURLにアップロードいたしますので、ダウンロードしてご利用ください（現地参加の方には印刷してお配りいたします）。

https://drive.google.com/drive/folders/1vrLHl2VbkX_PasYJQbQ9W-bAg9fsK6-6?usp=drive_link

以上

発信元：
京都大学 渉外・産官学連携部広報課国際広報室
TEL：075-753-5729 FAX：075-753-2094
E-mail：comms@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp



配布先：京都大学記者クラブ、文部科学記者会、科学記者会
報道解禁：2025年3月14日（金）午前11時（新聞は14日夕刊）

2025年3月12日

ひとが投資をするとはどういうことか

「自己形成としての投資」に関する概念分析と価値提案

1. 背景

本学文学研究科・哲学専修の出口教授と成長戦略本部の渡邊特定助教は、哲学のミッションを「価値の提案」と位置づけ、哲学を社会に実装するための産学連携研究や発信活動を積極的に展開しています。そうした活動の中心には、出口教授が提唱する「われわれとしての自己（Self-as-WE）」という概念があり、近年は特にその観点から、新たな「しあわせ」の捉え方を構想しています。

たとえば、一般に「ウェルビーイング（well-being）」は、何らかの望ましい状態が達成された静的なものとして捉えられることが多いですが、Self-as-WEの考え方では、人間の動的な身体行為に着目し、行為が目的に向かって円滑に進行していること、すなわち遂行順調性としての「ウェルゴーイング（well-going）」を重視します。

一方で、お金のデザイン社のような金融機関も、人々の幸福や価値観を、行為実践との関連から深く再考せざるをえない状況にあります。新NISAのスタートにより「貯蓄から投資へ」という流れが加速すると期待されているものの、資産運用を主体的に継続する人の割合は、まだそれほど高くありません。近年、ゴール投資という考え方が普及しつつあり、まず中長期的なゴール（目標）を設定し、そこから逆算して資産運用計画を立てる手法が注目されています。しかし、目標を定め計画を立てることと、実際に行為に踏み出すことは別の問題であり、合理的な認識だけでは行為を駆動することも、継続することも難しいのが実情です。

本研究は、出口教授を代表として過去に行われた、お金のデザイン社との共同研究（『しあわせ』の再定義と定量的尺度作成のための調査研究 ～個人の価値実現をサポートする金融サービスのあり方を哲学的見地から検討～）をさらに発展させるものです。「資産を形成する」「投資をする」という行為の特徴に注目することで、私的な価値の追求と公共的な価値への配慮とが互いに促し合いながら実現されるような実践を、広く社会に生み出すことを目指します。

2. 研究の概要と成果

投資や資産形成を単なる経済活動にとどまらない人間の営みとして捉えたとき、それは個人の生き方や社会のあり方にどのように関わるのでしょうか。本研究は、自己と幸福に関する哲学的考察を通じて、この問いに対するひとつの答えを提示することを目的としています。

第一期共同研究（2021～2022年度）では、「しあわせ」を構成する多元的な価値を可視化する尺度「ライフ・インテグレーター」を開発しました。今回の第二期共同研究（2023～2024年度）では、このライフ・インテグレーターを資産形成に活用するための基本的な考え方を整理しました。ポイントとなるのは、「投資」や「資産形成」という概念そのものを分析し、そこに含まれる「作る」「委ねる」という行為に着目したことです。そして、「自己」と「ナラティブ」に関する国内外の先行研究を踏まえながら、

具体的に以下の考察を進めました。

まず、長期の資産形成において、目標設定に基づく合理的なアプローチが必ずしも機能しないという事態を「ゴール投資のパラドクス」として定式化しました。

次に、このような機能不全を乗り越えるために、資産形成を自己形成の一環と捉え、それら二つの「作る」行為が互いを充実させながら循環的に進んでいく関係を明らかにしました。

また、投資を「目的が内在する行為」、すなわちアリストテレスのいう「エネルゲイア」として捉えることで、ロングタームの資産形成を単純なゴール投資の枠組みとは異なる視点から理解できることを示しました。

さらに、ライフ・インテグレーターによって可視化された「しあわせ」のスナップショットに時間的な方向性を与え、行為を駆動する個人のナラティブへと発展させるための試みとして、生成 AI を用いたストーリー作成を実践しました。

3. 今後の予定

ライフ・インテグレーターによって価値観の骨格を可視化し、AI が生成したストーリーをシグナルとして、自分らしく肉付けされたナラティブを言語化する。このようなステップを踏むことで、自分自身にも捉えがたい「しあわせ」のかたちを実践へと「行為化」することが可能になると考えられます。

本研究が提案するこの枠組みは、まずはお金のデザイン社の顧客を対象とした意思決定サポートツールの基盤として活用される予定です。その実践事例をもとに、より一般的な文脈での活用が可能となるよう、アプローチと手法の検討を進めていきます。

また、哲学的な観点からは、ウェルゴーイング (well-going) の概念をより精緻化し、適切な尺度化を行うことで、それを政策効果測定へと発展させることを目指します。

4. 研究プロジェクトについて

哲学的アプローチによるファイナンスの新たな価値に関する共同研究 II

京都大学大学院文学研究科哲学専修 教授 出口康夫

京都大学成長戦略本部 特定助教 渡邊一弘

株式会社お金のデザイン・お金のデザイン研究所 取締役副会長/ファウンダー 廣瀬朋由

添付資料

- ホワイトペーパー
- スライド (ホワイトペーパーの内容をもとにしたお金のデザイン社の営業用資料)

※ いずれの資料も、正式な最終版は 3 月末日にお金のデザイン社の HP (<https://www.money-design.com/>) に掲載されます。本日添付するものは参考資料としてご覧ください。

< 研究に関するお問い合わせ先 >

渡邊 一弘 (わたなべ かずひろ)

京都大学成長戦略本部 特定助教

E-mail : watanabe.kazuhiro.3k@kyoto-u.ac.jp

< 報道に関するお問い合わせ先 >

京都大学 渉外・産官学連携部広報課国際広報室

TEL : 075-753-5729 FAX : 075-753-2094

E-mail : comms@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp